

毎月1日・15日発行 平成22年8月15日号

今月の紙面から

台風へ備えよう～気象情報に注意して、事前の対策を～ 2～3
子育てを支援しています、幼稚園保育所 8～9
「自分でできること見つけた!」健康な子育てをサポート、「健康むなかた21」 18



市民活動交流館のホームページができました 5
ちよつとの工夫が大きな力に、地球温暖化に関する意識調査結果 7
郷土の遺産を体感、世界遺産バス見学講座、「世界遺産への道」 10
世界に架ける橋となる、ガールスカウト福岡県第28団、「メッセージ」 13
玄海東小児童も参加、疫病退散と漁業の安全を祈る鐘崎山笠、「トビックス」 14
協働の「波」次々に、地島…潮風の中の交差点その1、「協働のまちづくり」 17

釣りのイロハから学べる、大島親子釣り教室参加者募集、「島だより」(16ページ)

1・4・5	2・3	6・7	8～10	11・18	12	13	14～17	17
行政	防災特集	環境	学びの里	健康・福祉	カレンダー	男女共同参画	お知らせ	市民協働

広報むなかた

むなかた

タウンプレス

宗像市公式ホームページアドレス
<http://www.city.munakata.lg.jp/>
メールアドレス
koho@city.munakata.fukuoka.jp

発行：宗像市 〒811-3492 福岡県宗像市東郷 1-1-1
代表：総務課 ☎0940-36-1121 FAX 0940-37-1242
編集：情報政策課広報係
☎0940-36-1055 FAX 0940-34-2002

「環境」をテーマに専門的知識を学ぶ むなかた協働大学第2期生

市内三大学と市が連携し、専門的な知識を持つ「まちづくり」を担う人材を育成する「むなかた協働大学」。第2期生の入学式が6月13日、市民活動交流館（メイトム宗像）で開かれ、35人の「学生」が2年間の学びを誓いました。

■問い合わせ先
むなかた大学のまち協議会事務局
（市民活動交流室内） ☎(36) 0311

は、30歳代から70歳代までの総勢35人。1年目は、3大学の教授らによる15の専門講義。2年目は、市主催による実践的な講座です。

入学式で同大学学長の谷井博美市長は、「市のまちづくりのためには、元気で熱意のある市民が不可欠です。2年間の勉強で専門的な知識や技能を身に付けるとともに、仲間との学生生活も大いに楽しんでください」と学生たちを激励。学生を代表して齋崎（つるさき）大さん（33歳・自由ヶ丘）が、「協働大学で出会った仲間と共に、広く深く学び、市の環境のまちづくりの担い手となるよう努力します」と力強く宣誓しました。

むなかた協働大学は、福岡教育大学、日本赤十字九州国際看護大学、東海大学福岡短期大学（東海短大）と市で設立する「むなかた大学のまち協議会」が主催。市のまちづくりを担う人材育成を目的とした大学です。第2期となる平成23年度は、市民活動団体とコミュニティ運営協議会が連携した「環境のまちづくり」の実現に向け、「環境」をテーマに専門的な知識などを学びます。

7月25日には、東海短大の竹内裕二准教授が「調整する技術」と題して講義。竹内先生の10年間に渡る洞海湾の環境に関する取り組みを通して、「環境をテーマとした活動は長く続けることが重要。そのためには、技術だけでなく継続したいという思いも大切」とメッセージ。学生の「行動のスタート地点で気を付けていることは？」という質問に、「何を目的にそれをやるのかを伝えること」と答えるなど、活動していくためのキーワードが盛り込まれた内容となりました。

環境をテーマに2年間の勉学に臨む第2期生と関係者



力強く宣誓文を読み上げる齋崎さん（中央）



東海短大で竹内准教授（奥）の講義を学ぶ学生たち



たにい ブログ・フォト日記

広報紙15日号で毎月、市ホームページ=<http://www.city.munakata.lg.jp/>に掲載している市長ブログを紹介しています。

■問い合わせ先 秘書課 ☎(36)0890

7月22日（木）、宗像ユリックスで開かれたラジオ体操会に、約2200人の市民のみなさんが参加されました。

現在、市内では、約10団体が通年でラジオ体操を実施され、中には城山の頂上で毎日実施されている団体もあると聞いてびっくりすると同時に、



そのメンバーが参加されていたと聞き、感激しました。また、夏休みには市内各所で子どもたちが取り組んでいます。

ラジオ体操終了後は、体育指導委員による「ワカメ体操」を実施したほか、正助ふるさと村から宗像産の食材を使った豚汁も振る舞われました。

ラジオ体操をはじめとする各種体操は、健康づくりにとどまらず、地域のコミュニティづくりにもたいへん有意義なことだと思えます。

今回のラジオ体操会をきっかけに、こうした体操が市内全域に広がるとうれしいです。

学生の「コメント」

▽吉柳柳行さん
（50歳代・赤間）



環境関連の某財団法人を退職後、今までの経験や環境カウンセラーの資格を生かして何か地域に貢献したいと考えていた時、協働大学のことを知りました。大学の先生と一緒に学ぶ仲間をはじめ多くの人々と知り合い、「環境」をキーワードに地域ネットワークができればと思っています。

▽麻生悟さん
（60歳代・日の里）



コミュニケーション運営協議会の役員をきっかけに、役員退任後もコミュニケーション紙の編集や「日の里まつり」の企画など、地域のことに関心を持つようになりました。環境問題には、趣味の登山を通じて強い関心を持っています。課程終了後は、市民の目線で環境問題を抽出し、「まちづくり」の一端に微力を尽くしたいと思っています。

▽北條直美さん
（60歳代・赤間西）



定年退職を迎え、今まで会社人間で地域とのつながりがなく「何か、かわりを持てれば」と考えていた時、広報紙で協働大学の存在を知り、頭の活性化を図る意味でも、受講してみようと考えました。「環境」という身近なテーマとした各大学の先生の幅広い知識を十分に吸収し、今後のまちづくりに役立てればと思っています。